

# 2024 年度 中間決算報告書



株式会社エフエム東京

## 事業の概況

当中間会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する中で、緩やかな回復が見られたものの、世界経済の減速リスクや資源価格の動向等、依然として経済・物価をめぐる不確実性は高く、先行き不透明な状況が続きました。

広告市場においては、経済産業省特定サービス産業動態統計調査（広告業、2024年4月～9月期）によると、インターネット広告費が引き続き成長（前年同期比6.9%増）を続けている一方、マス四媒体広告費についても、テレビが前年同期比1.7%増、雑誌が同13.9%増、ラジオは同0.9%増と、新聞（同3.8%減）以外で回復傾向を示しました。

このような状況下、当社においては、主力の放送事業収入の前年割れが続いており、重要課題に掲げている放送事業以外の収入の拡大を担うIP企画事業収入が前年同期比5.4%増の伸びを示したものの、放送事業収入の落ち込みをカバーするまでには至りませんでした。

この結果、当中間期は、売上高51億8千2百万円（前年同期比3.8%減）、営業利益1億6千7百万円（同39.0%減）、経常利益3億3千6百万円（同21.1%減）、中間純利益は2億9千5百万円（同43.9%減）となりました。

事業セグメント別の活動状況は以下の通りです。なお、放送事業以外のBtoC収入の拡大を今後の重要課題と考えていることから、当社の事業セグメントは、基幹事業の「放送事業」、成長分野である「IP企画事業」、これらに属さない賃貸事業等の「その他の事業」に変更しました。

### ■ 財務ハイライト

（単位：千円）

	2024年度 中間期	2023年度 中間期	増減(%)
売上高	5,182,139	5,387,047	△3.8
（うち 放送事業収入）	4,821,043	5,052,255	△4.6
（うち IP企画事業収入）	324,550	307,859	+5.4
（うち その他の事業収入）	36,544	26,932	+35.7
営業費用	5,014,403	5,112,275	△1.9
営業利益	167,735	274,771	△39.0
経常利益	336,686	426,660	△21.1
中間純利益	295,753	526,777	△43.9

### <放送事業>

当期は期首に次の3つの行動指針を策定し事業を推進しています。

- ① 番組コンテンツを強化し、リスナーから、より一層支持される番組を届ける
  - ② 番組コンテンツの活用により、放送収入以外の伸長を目指す
  - ③ 開局55周年アニバーサリーイヤー特別企画を立案し実施する
- 各指針の進捗は以下のとおりです。

#### ① 番組コンテンツを強化し、リスナーから、より一層支持される番組を届ける

4月改編において話題の出演者を起用した新番組をスタートさせました。目玉のひとつは、歯に衣着せぬ痛快コメントで支持されている人気コメンテーター・玉川徹氏の初のラジオレギュラー番組『ラジオのタマカワ』です。また、演技力と美声で幅広い世代の女性ファンが多い声優・俳優の津田健次郎氏による『津田健次郎 SPEA/KING』もスタート、新番組ながら早くも6月に番組連動イベントを実現し、多くのファンが来場、オリジナルグッズの販売によりBtoC収入の拡大に貢献しました。

#### ② 番組コンテンツの活用により、放送収入以外の伸長を目指す

番組を起点としたイベント開催やグッズ販売を通じて、リスナーとのエンゲージメント強化や、放送外収入の伸長に取り組みました。4月には、平日夜のレギュラーワ

イド番組『Roomie Roomie!』の番組ファンを対象としたオリジナルイベントをTOKYO FMホールで開催、6月には『村上RADIO』のパーソナリティ・村上春樹氏プロデュースによる音楽イベント『村上JAM vol.3～熱く優しい、フュージョンナイト』をすみだトリフォニーホールとBLUE NOTE TOKYOで2夜連続開催、いずれもチケット完売の大盛況となりました。8月には、昨年につき、次の3つの番組イベントを実施しました。『SCHOOL OF LOCK!』では、ソニーミュージックと合同で10代限定のアーティストオーディションイベント『マイナビ閃光ライオット2024 produced by SCHOOL OF LOCK!』を開催しました。また、『山崎怜奈の誰かに話したかったこと。』では、トークイベント『ダレハナ夏祭り2024～みんなのうた～』を昨年のTOKYO FMホールから、今年是有楽町よみうりホールに会場を拡大して開催、『Skyrocket Company』でも昨年につき、西新井大師の盆踊り大会と共同で、『スカロケ大盆踊り大会 in 大師夏まつり2024』を開催しました。

当社では、放送番組とデジタルコンテンツの連携による広告収入拡大に以前より取り組んでおります。なかでも、企業トップや商品開発担当者等が出演する動画コンテンツ『NEW TREND ONE』は、YouTubeやタクシーサイネージでも配信されることから、協賛企業から高く評価されています。また、当社は、2024年10月、デジタルマーケティング会社の(株)フラッグとの共同出資により、(株)ラジオDXアライアンスを設立しました。新会社との連携によりデジタルマーケティングを強化し、放送とデジタルの融合を加速させていきます。

### ③ 開局55周年アニバーサリーイヤー特別企画を立案し実施する

当社は、2025年4月26日に開局55周年を迎えるにあたり、2024年10月から2025年12月末までを「開局55周年アニバーサリーイヤー」と位置づけ、記念事業を展開していきます。10月の『TOKYO FM リスナー感謝祭 in 渋谷音楽祭2024』を皮切りに、アニバーサリーイヤーを記念して様々な番組やイベントを実施する予定です。

前述の3つの行動指針に基づき上記のような取り組みを実施した結果、当中間期に実施された全3回の首都圏ラジオ合同聴取率調査において、当社のコアターゲットである「男女18～49歳」、「男女12～59歳」、個人全体である「男女12～69歳」の主要3区分において、いずれも首位（同率含む）を獲得しました。「男女18～49歳」および「男女12～59歳」においては2022年2月以来16期連続首位となり、「男女12～69歳」は2022年4月以来15期連続で首位を継続しています。

以上のような活動を実施しましたが、前年同期の中古車関連企業による大型スポット収入に見合う出稿を当期は獲得できず、当中間期における放送事業の売上高は、48億2千1百万円、前年同期比4.6%の減収となりました。

### <IP企画事業>

当中間期は、前述のとおり番組イベントの開催に特に注力しました。『村上JAM vol.3～熱く優しい、フュージョンナイト』は、世界的なジャズ・ピアニストの大西順子氏を音楽監督に迎え、海外から一流のミュージシャンを招聘して制作、2夜連続の各公演を完売しました。また、ワイド番組『Roomie Roomie!』、『SCHOOL OF LOCK!』、『山崎怜奈の誰かに話したかったこと。』、『Skyrocket Company』を拠点に実施した各イベントは、集客や券売に加えてグッズ販売も大盛況となりました。

更に国内最大規模の音楽フェス『ROCK IN JAPAN FESTIVAL 2024』についても、(株)ロッキング・オンとの緊密な関係性により主催し、今年は5年に一度の開催となる「ひたちなか公演（茨城県）」の運営業務を全面的に受託、売上に大きく貢献しました。また、ブロードウェイ・ミュージカル『天使にラブソングを...』、『BLUE MAN GROUP JAPAN TOUR 2024』等の海外エンタテインメントにも積極的に出資参画しました。

デジタルコンテンツ販売においては、音声コンテンツプラットフォーム「AuDee」の新サービスとして2023年11月に立ち上げた「AuDee番組メンバーシップ」が順調に有料会員数を伸ばし、当中間期末には会員数が約1.5万人に達しました。コンテンツの質量ともに充実させ、当期中に3万人達成を目指します。

また、AuDeeコンテンツの外部プラットフォームへの配信も当期より本格的に開始しています。これにより外部プラットフォームからの広告収入が見込める他、AuDeeへの導線としても機能することで、AuDeeのメディア価値向上・収入の拡大を図っております。

以上のような活動を展開した結果、IP企画事業の売上高は、3億2千4百万円、前年

同期比5.4%の増収となりました。

<その他の事業>

賃貸事業において、当社自社ビルを賃借するグループ会社が増えたことにより、その他の事業の売上高は前年同期比35.7%増となりました。

#### 主なグループ会社の状況

第59期事業年度（2023年度）に係る定時株主総会決議通知の添付書類でお知らせしたように、当社は、当会計年度より連結計算書類の作成を取り止めましたが、以下に主要なグループ会社の状況を参考として記載いたします。

(単位：千円)

	売上高		営業利益	
	2024年度 中間期	前期比 (%)	2024年度 中間期	前期比 (%)
ジグノシステムジャパン(株)	1,056,435	+43.6	132,275	+637.8
(株)ミュージックバード	210,080	+6.8	16,212	+277.8
(株)サウンズネクスト	1,171,458	+1.1	25,742	△16.7

以上

# 比較中間損益計算書

2024年4月1日～2024年9月30日

株式会社エフエム東京

(単位:千円)

勘定科目	2025年3月期中間期 (2024.4.1～2024.9.30)	2024年3月期中間期 (2023.4.1～2023.9.30)	前期比
売上高	5,182,139	5,387,047	96.2%
売上原価	3,333,476	3,385,387	98.5%
売上総利益	1,848,662	2,001,660	92.4%
販売費及び一般管理費	1,680,926	1,726,888	97.3%
営業利益	167,735	274,771	61.0%
(売上高営業利益率)	3.2%	5.1%	
営業外収益	171,980	159,574	107.8%
営業外費用	3,029	7,686	39.4%
経常利益	336,686	426,660	78.9%
(売上高経常利益率)	6.5%	7.9%	
税引前中間純利益	336,686	426,660	78.9%
法人税、住民税及び事業税	33,816	1,824	1853.6%
法人税等調整額	7,116	△ 101,942	—
中間純利益	295,753	526,777	56.1%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

# 比較売上高内訳書

2024年4月1日～2024年9月30日

株式会社エフエム東京

(単位:千円)

	2025年3月期中間期 (2024.4.1～2024.9.30)	2024年3月期中間期 (2023.4.1～2023.9.30)	前期比
売上高	5,182,139	5,387,047	96.2%
放送事業収入	4,821,043	5,052,255	95.4%
放送収入	2,993,727	3,229,799	92.7%
タイム放送料	2,005,038	2,152,954	93.1%
スポット放送料	988,689	1,076,845	91.8%
制作収入	1,112,237	1,158,861	96.0%
その他	715,078	663,595	107.8%
IP企画事業収入	324,550	307,859	105.4%
その他の事業収入	36,544	26,932	135.7%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。